

未来の福祉をこの街に!

三井みわこ 活動レポート

三井みわこで 検索

URL <http://www.mitsui-miwako.com/>

東日本大震災の被災地で、ボランティア活動

平成23年10月25日～27日にかけて、民主党千葉市議会議員団の有志で、東日本大震災の被災地にボランティア活動に行き参りました。

【訪問先】岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市、南三陸町

今回は、前回(5月)支援に伺った陸前高田市長、戸羽太氏を仮庁舎に再訪し、義援金をお届けしました。陸前高田市では、東日本大震災発生後に最大13.8mの大津波が襲い、殆どの市街地が壊滅しました。全世帯8,068世帯の内4,465世帯が被災、1,548人の犠牲者を出し、未だに138人が行方不明となっています。生活基盤(住宅、商店街、病院、銀行等)が失われると共に、市職員も全295人の4分の1に当たる68人が尊い犠牲となりました。私達に出来る事はないですかと、戸羽市長にお伝えすると、市長は「被災地は日々忘れられていく。現実の被災地は、まだまだ復興というより復旧の段階で、被災地が孤立しないよう、千葉市の皆さんに被災地の現実をお伝え頂き、どうか忘れないでいただきたい。」とおっしゃっていました。震災から7か月経っても、街の様子に変わりがなく、ほとんど復旧されていませんでした。今後も時間のある限り支援に伺いたいと思いました。



また、気仙沼市で被災された知人に物資を届け、被災の状況を伺うことが出来ました。気仙沼市市街地は、海に重油が流れ込んで火災が発生しましたが、辺り一面消失した後を目の前にして、住んでいた街がなくなり、さらに津波で亡くなられた方々のことを思うと胸が痛みました。その方によると、地震直後一週間は情報が入らず、街の状態も分からない、唯一の情報ラジオのみ。また、近くに60人程の住民が避難した丘がありましたが、津波が想像以上に高く、結局木に登った6人しか助からなかったそうです。住んでいた街が無くなり、さらに津波で失われた方々のことを思うと心が痛みました。

翌日、南三陸町でボランティアとして活動しました。この地域は、震災以来7か月間手つかずで、今も全国各地からボランティアが訪れて、毎日手作業で瓦礫撤去を行っています。

【作業内容】

瓦礫撤去や片付けの作業が中心でした。この日は、ボランティアが50人程集まり、皆で協力して家8件分の瓦礫を撤去しました。参加したメンバーは、親子連れ、学生、ビジネスマン、公務員など様々でしたが、中でも9月下旬からボランティアに来ていた大阪の方が印象的でした。また、ボランティアに来ている内に生活資金が無くなり、現地でアルバイトをしている青年もいると伺いました。とにかく、皆で一致団結して作業に没頭した一日でした。

【活動の目的】

- ・被災地に伺い、人的支援をする。
- ・自分たちが被災した場合に備えて、実際に被災地に伺い、現地での支援体制を勉強する。

【まとめ】

今回のボランティアでは、とにかく現場を見る事が何より重要だと感じました。自然災害の凄まじさについて身を持って感じ、この大災害を教訓にして、私達はこれまでの防災計画・防災対策、国や都道府県そして市町村の役割と連携の在り方を再検討する必要があることを知りました。また、被災地の復興には、何よりスピード感のある対応が不可欠で、今は一日も早く瓦礫を撤去することが欠かせません。

今後、地域コミュニティの再生と共に自助・共助・公助を地域に浸透させることも重要ですが、何よりも一人ひとりが、災害時に今その場にいる隣人を助けるという意識が社会全体に浸透して、はじめて市民が主体となった「安全・安心に暮せる社会」が構築できるということを、今回の再訪で改めて感じる事が出来ました。



天津市とのお付き合い

児童図書館の寄贈

天津市に新設される児童図書館に、子ども用の日本の本を贈ってもらえないかという話があり、日中友好に役立てばと約千冊を送ることになり、有志15人で訪問しました。そこで、私は名誉館長を委嘱されたのです。

当時、3日間にわたり、私に天津テレビが張り付き取材をし、1時間番組もつくられました。まだ、中国ではテレビの珍しいことです。このことをモチーフにした絵本『仲よし夢の島』(鈴木一正)は、日本語と中国語で書かれていて好評ですが、その後、この絵本千冊を14人で持参して贈呈しました。この贈呈式は、銭共産党副委員長(前副市長)が歓迎委員長として行われました。



日本人学校設立

天津日本人会長から「日本人学校設立に支援をしてほしい。これから日本の企業が多く進出してくるが、子どもの学校がないので単身赴任者は困っています。」と伺い、帰国後、友人で緑町小校長を退職していた岡本博幸さんをお願いしました。学校は、日本人会が3年間運営し、実績を上げれば国の認可になるということでした。その過程で、学校の様子を拝見しようと、私自身も現地に伺ったりしました。3年間の運営後、めでたく国の認可が出たことで、彼は帰国しました。今では、この学校で、学んでいる児童も数百人になるのではないのでしょうか。天津市は、北京オリンピック開催の頃から飛躍的に発展し、中国中央銀行の総裁が市長として派遣されるほどの都市になっています。

千葉図書館設立

元市議会副議長の重村旦先生は卓球の大御所で、中国の会長とも親交があり、天津外語学院に「千葉図書館」をつくろうと市民に呼びかけ、現地に10万冊の本を贈りました。私もお手伝いをした経緯から、訪中の折に2度同学院を訪ね、段ボール10箱分の本を提供しました。千葉図書館は、新設6階建てのビルの最上階にオープンし、日本語の図書館としては、

その量において中国一でしょう。現在、中国の学生にどのように活用されているか、ちょっと気がかりなところですが。

「一衣帯水」と言う書を天津の書家から頂いたことがあります。日本は卑弥呼の時代から中国と交流を続けており、21世紀には更に友好を深め、互いに持てるものを提供し合い、世界平和に役立ちたいものです。そのためには、草の根の民間交流が最も大切ではないのでしょうか。

安藤 操 (歴史民俗研究家)

モニスタ

千葉を朝から 元気にする朝食会

あなたは今、都内を中心に活発に行われている「朝活」「朝食会」をご存知でしょうか。

テレビや新聞などで頻繁に取り上げられているので、すでにご存知の方もいらっしゃると思います。

実はその「朝食会」なんです、実は千葉でも行っているんです。

■千葉朝食会『モニスタ』

【日時】 毎週木曜日 朝7:00~9:00

【会場】 ※会場は、海浜幕張と千葉中央駅を交互に開催しています。

○EXCELSIOR CAFE メッセアミューズモール海浜幕張店

○ジョナサン 千葉中央駅前店 (最寄駅: 千葉中央駅)

【内容】 朝食を取りながら、雑談を行い、メンバー同士で交流を深めます。

7:00~7:30 雑談。

7:30~8:30 テーマを1つ決めて話し合いを行います。

8:30~9:00 情報交換の延長および雑談。

【費用】 各自朝食代のみ ※参加費は一切発生しません。

【参加申込】

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/2d85f131110308>

【連絡先】 090-8034-6934 (小林)

*朝食会に、ご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にご連絡下さい。

途中参加
退場は自由です。